

～笑顔とやさしさをつなげていく北方の子～



北方だより

横浜市中区諏訪町29

TEL 045-621-2966

<https://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kitagata/>

豊かな成長を

校長 伊藤 洋子

9月初旬、飼育小屋の近くで、背の高い草の先に見付けました。私が見たことがある緑色の体ではなく、少し白っぽい色の体でした。指先で触れても動きません。不思議に思い、バツタが捕まっている草の下の方を見ると、半透明の抜け殻を見付けました。「脱皮したんだ。」と、初めて見た抜け殻と脱皮したばかりのバツタに心が躍りました。抜け殻とバツタが捕まっている草を根本から切り、朝の会真っ最中の1年生と2年生、5・6組の教室に向かいました。子どもたちは、目を輝かせて食い入るように見つめていました。

9月中旬になり、飼育ケースを持つ2年生の子どもたちをよく見かけるようになりました。

「見て。バツタだよ。」

「茶色いね。緑色のバツタが日に焼けたのかなあ。」

「違うよ。茶色いバツタもいるんだよ。」

「バツタは何を食べるの。」

「はっぱを食べるんだ。だから、はっぱを入れているの。」

飼育ケースを覗き込みながら意気揚々と話す子どもの姿は、学習指導要領で示している資質・能力の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を身に付けている姿です。子どもは、「生き物は生命をもっていることや成長していること」「生き物に合った世話の仕方があること」を既知の知識として持っているでしょう。けれども、実際に世話することで、「捕まえた場所みたいに、はっぱをたくさん入れて隠れる場所を作ると喜ぶかな。」「捕まえた場所に生えていたはっぱは、食べるかもしれない。」と、育つ場所、変化や成長の様子について考えたり判断したりすることで、既知の知識を実際の生活の中で活用できる知識にしていきます。

考えたり判断したりする中で活用できる知識にしていくためには、対象への関わり方の質を高めることが求められます。課題意識を明確にもって追究し続ける態度や、自分の取組を振り返って追究する内容や方法を検討する態度が求められるのです。つまり、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を確かに身に付けるには、「学びに向かう力、人間性」を存分に発揮する必要があります。

前期最終授業日の6日には、前期のあゆみをご家庭にお届けします。あゆみでは、観点別学習状況の評価◎○△や、その評価を総括した評定1・2・3を記載して、学習のようすをお伝えします。観点別学習状況の評価の観点は、資質・能力の三つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を踏まえ、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理されています。その3観点の中でも、「主体的に学習に取り組む態度」は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」を自ら確かに身に付けられるように取り組んでいるかを評価する観点です。「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうか」(国立教育政策研究所『学習評価の在り方ハンドブック』より)を評価します。

先日実施した個人面談では、あゆみではお伝えしきれない評価を、子どもが記載した「自分づくり・パスポート」を踏まえてお伝えしました。個人面談とあゆみの双方で前期の学習と生活を振り返ることと、学校とご家庭で連携し、子ども一人ひとりの豊かな成長につなげていきたいと願っています。

*保護者の皆様・地域の皆様

前期の教育活動へのご理解・ご協力、ありがとうございました。

後期も引き続き、よろしくお願いたします。*